



令和4年10月28日発行 23号

10月になり、吹く風も朝晩は冷たくなって秋の訪れを感じますね。

秋といえば、「食欲の秋」「スポーツの秋」「実りの秋」など、たくさんの楽しみがある季節です。また、「読書の秋」とも言われるように、秋は夜が長く、過ごしやすい季節でもあるため、何事にも集中しやすいと言われていきます。みなさんも、秋の夜長に読書を楽しんでみてはいかがでしょうか。

茅野市図書館では中高生の皆さんへ向けた本を中心とした『ティーンズコーナー』があります。小説や文庫、ちくまプリマー新書、岩波ジュニア新書などさまざまなジャンルの本を所蔵しています。ぜひ、茅野市図書館へ来てくださいね！

知の宝庫

ちくまプリマー新書

新刊の「ちくまプリマー新書」が何冊も入りました。読書の秋は、『知』を増やす秋でもありますね。



新しい本の紹介



こうくん 上下巻

上橋菜穂子 著



上橋菜穂子さんの待望の新刊『香君 上下巻』ができました。

毎回緻密に構築されたファンタジー世界で読者を魅了する上橋菜穂子さんの作品ですが、新作『香君(こうくん)』も期待通り、圧倒的な力強さで、読む側に活力を与えてくれる長編となっています。

『香君』で重要なモチーフとなるのは植物、そして農業です。奇跡の稲と呼ばれる、丈夫で育てやすいオアレ稲の栽培で発展を遂げてきたウマル帝国。ある時、藩王国を訪れた視察官のマシュウの目に留まったのは、〈香りの声〉を聞くことができる少女アイシャ。人並外れた嗅覚をもつアイシャは、オアレ稲に秘められた謎と向き合い、大きな運命に巻き込まれていく。人々の心理がリアルに描かれていて、心に響きます。

読書週間が始まりました！

10月27日（木）から読書週間が始まりました。今年の標語は「この一冊に、ありがとう」で、期間は11月9日（水）までです。読書週間は、戦後まもなく「読書の力によって平和な文化国家を作ろう」という志のもとに始まりました。茅野市図書館には読書週間に読むおすすめの本がたくさんあります。この機会に普段とは違うジャンルの本に挑戦するのもいいですね。



職員おすすめの本を紹介します

『学園ミステリー』 恩田陸 他 著
汐文社

ミステリーを読みたいけれど長編はちょっと…という人におすすめなのが、学園をテーマにした、ドキドキ、切ないミステリー・アンソロジーの本書です。どの作品も学園が舞台なので、十代のみなさんは身近に感じられると思います。3作あるなかで「メロンソーダ・ファクトリー」は、学園祭で着るTシャツのデザインをめぐる、いつも仲の良い友だちとの関係が微妙になっていきます。ラストの提案したデザインに反対された理由が思いがけないことで驚きます。この秋は、この本をきっかけに、ぜひミステリーの世界へどうぞ。

(伊藤)



『橋の上で』
湯本香樹実 文 酒井駒子 絵
河出書房新社

「いまここから川にとびこんだらー」と、橋の上から川を見ていたぼく。どこかからきた雪柄のセーターを着たおじさんが言った。「耳をぎゅうっとふさいでごらん。」
傷ついた心、哀しみでいっぱいになってしまった心を、ちょっとした出会いが救っていく。

ずっとモノクロで描かれている絵が、最後は素敵なグリーンと水色になるのが印象的です。

(川口)



『数の悪魔 算数・数学が楽しくなる12夜』 エンツェンスベルガー著
ベルナー 絵 丘沢静也 訳 晶文社

ロバート君は友達とサッカーをするのが好き。でも算数や数学は大嫌い。ある晩彼は夢の中で「数の悪魔」と出会います。小柄で頭に角が生えた真っ赤な老悪魔は、毎夜彼の夢に現れては夢の教室で数学の授業を始めます。悪魔が持っているステッキを空中で振れば数の法則が段々とわかってきます。さて、今晚はどんな法則を見つけることができるのでしょうか。

(小平)

